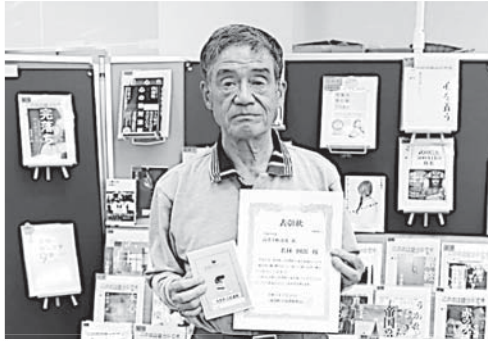


図書館インフォメーション



読書手帳6冊目達成、
おめでとうございます！

読書手帳について

図書館ではカウンターで、読んだ日や本のタイトル、感想などを記録することができる読書手帳をお配りしております。子ども用は30冊・大人用は42冊まで、最後まで達成した方には記念スタンプと図書館から表彰状を贈らせていただいております。平成28年からスタートして、現在までに、合計21冊、10名の方が達成していて、中でも町内在住の若林四郎さんは既に6冊を達成されました。これからも町立図書館の本を愛していただくとともに、ご自分の読書記録としてご活用いただければと思います。

図書館見学会

6月10日（木）、栄小学校1・2年生が図書館見学会に来館しました。子ども達は、本の種類やおすすめ本についてなど、図書館に関する様々な質問をしたり、普段あまり見ることのないカウンターの裏側や、書庫の様子などを熱心に見学していました。図書館を上手に利用し、読書を楽しむきっかけとなりますように。



夏休みおすすめ本

1階入り口付近に、夏休みの期間に合わせ、第67回青少年読書感想文全国コンクール課題図書、山梨県すいせん図書、夏休みの友紹介図書、読書感想文の書き方などについての本をご紹介します。人気本のため、こちらの展示本の貸出は、**一人2冊、貸出期間は1週間まで**とさせていただきます。

富沢図書館一時閉館のお知らせ

富沢図書館の移転に伴う、棚や書籍の移転作業のため、現在の富沢図書館は **8月10日（火）** から一時閉館となります。

なお、移転後の新富沢図書館の開館予定は、11月初め頃になる予定です。おおむね3か月程度は、富沢図書館が利用出来なくなりますので、その間は南部図書館をご利用ください。利用者の方々には大変ご不便をお掛けいたしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

図書館の予定

- ・乳幼児リトミック教室
8月4日（水）
午前10時30分～11時30分
講師：佐野貴子先生／長洞まゆ先生
- ・乳幼児おはなし会 のんたんのへや
8月25日（水）
午前10時30分～11時30分

※各種催し物は、新型コロナウイルス感染予防のため中止になる場合があります。なお、中止の場合はFM告知放送でお知らせします。

町立図書館では、年代別のおすすめ本の紹介などの情報を図書館だよりで配信しています。図書館だよりのバックナンバーは右のQRコードを読み取るとご覧いただけます。



夏休み子ども映画会

- ★7月24日（土）午後3時～4時30分
- ★7月31日（土）午後3時～4時30分
- ★8月7日（土）午後3時～4時30分

場所：図書館1階視聴覚室

ご家族でお楽しみください。

★内容は決まり次第、FM告知放送などでお知らせします。

今月の新刊情報

「琥珀の夏」

辻村深月著

30年前の記憶が蘇り、忘れて大人になった者と取り残された者はやがて法廷へ。過去の事実が明らかになりその先に見えるものは何か。



「梅花下駄」

佐伯泰英著

文政12年夏。江戸を焼き尽くした大火を乗り越え復興に向け動き出す照降町。大火で命を落とした人々のために催した復興の制作とは。

「星影さやかに」

古内一絵著

非国民と呼ばれた父を恥じていた、軍国少年の息子に届いた遺品の日記。激動の昭和を生きた親子の記憶が紐解かれる。宮城県古川を舞台に描く。



「星に祈る」

あさのあつこ著

児童文学小説から一般向け時代小説など幅広い内容で読者を引き付けるあさのあつこ。シリーズ「おいち不思議がたり」第5弾が出版。

「リボルバー」

原田マハ著

ゴッホは本当にピストル自殺をしたのか？ フィンセント・ファン・ゴッホと彼にまつわる物語を、現代に生きるオークション高遠冴の目線で描いたアート・ミステリ。



「わが米本土爆撃」

藤田信雄著

世界で唯一、米本土を爆撃した藤田信雄。元帝国海軍中尉が後に米国の名譽市民になるまでの波乱の人生を綴った手記。



「読書大全」

堀内勉著



「花子とアン 村岡花子の甲府時代」
深沢美恵子著



「おひとりさまの老後」
上野千鶴子著



「散歩が楽しくなる日本の色手帳」
日本色彩学会監修



「子どものつまずきからわかる算数の教え方」
奥塩渚著

郷土資料室から

近藤浩一路資料紹介



「Malraux et le samourai」
Herve marion

「マルローと侍」

ハバー・マリオン著

現在フランス、ブルターニュ地方サン・マロ在住。
長年のマルロー研究より出版。



2019年、フランスにおいて「マルローと侍」(ハバー・マリオン著)の出版に伴い、近藤浩一路とアンドレ・マルローについて資料提供を求められました。出版された内容には、日本の偉大なる画家、近藤浩一路として取り上げられています。

当時(昭和6年・7年)近藤浩一路は二度にわたり渡仏、親交があった小松清氏(評論家)と共にマルローの斡旋によりパリの有名なN・R・F社画廊において個展を開催しました。その後、アンドレ・マルロー氏の小説にも近藤浩一路はモデルとなり登場し80年の時を超えた現在もフランスにおいて日本の偉大な画家として名を馳せています。

著者ハバー・マリオン氏がフランスより美術館に訪れる約束が早く実現できると嬉しく思います。